

国民年金保険料免除制度



所得の減少や失業などの経済的な理由で納付が困難な場合、申請して承認されると保険料が減免されます。

◆全額免除

保険料の全額(14,660円)が免除されます。受給時には、全額納めたときの1/2として計算されます。

◆3/4免除

保険料の3/4免除され、納付額は毎月3,670円です。受給時には、全額納めたときの5/8として計算されます。

◆半額免除

保険料の半額が免除され、納付額は毎月7,330円です。受給時には、全額納めたときの3/4として計算されます。

◆1/4免除

保険料の1/4が免除され、納付額は毎月11,000円です。受給時には、全額納めたときの7/8として計算されます。

※3/4・半額・1/4免除は、保険料を納付しなければ、未納扱いとなります

※金額はすべて平成21年度分の保険料です

【申請免除申請の対象となる所得のめやす】

	単身世帯	2人世帯 (夫婦のみ)	4人世帯 (夫婦+子ども2人)
全額免除	57万円	92万円	162万円
3/4免除	93万円	142万円	230万円
半額免除	141万円	195万円	282万円
1/4免除	189万円	247万円	335万円

(注)所得額は、社会保険料控除額を考慮したおおよその目安で、扶養親族がいる場合、その人数に応じて変動します。

☎市民課 43-5023



▲ボールを追いかける選手たち

淡路島と韓国・南海郡の中学生たちによる初の親善サッカー大会が1月9日、洲本市の運動公園・アスパ五色で開かれました。平成20年10月に複数の島がある同郡から「島同士の交流を図りたい」と要請があり、交流がスタート。大会は淡路島内の中学生から選ばされた「淡路トレセンU-14」の18人と海城中学校サッカー部の18人で2試合を行い交流を楽しみました。淡路広域行政事務組合によ

ると、今年8月には淡路島からチームを派遣する予定で、今後いろいろな分野で交流を図り、親睦を深めていきたいとしています。試合後、選手たちはウェルネスパーク五色で交流会を開きました。



▲交流をした日韓両国の選手たち

日韓中学生サッカー交流

島内3市と韓国・南海郡

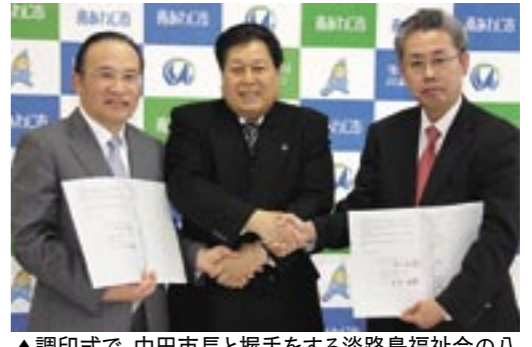
子どもの数は激減しております。将来を憂う声が多く、南あわじ市では、過去5年間で、市全体の小学生の数が約300人減少し、小学校1校が無くなった計算になります。人口ピラミッドを見ても団塊の世代から逆三角形になっていきます。地域を支える世代の絶対数が減少することは、ふるさとの衰退につながります。市民・団体と行政が一体となり、少子対策とともに、より一層の雇用対策や産業振興に力を注ぎ、生活が安定するための活動を推進しなければなりません。健康長寿社会をつくり、地域社会への貢献と成長産業の土台を作る必要があります。

合併以来、市民の皆さまのご協力を得て、少子対策を押し進めてまいりました。その成果として、減少し続けておりました毎年の出生数が、平成20年384人から平成21年387人と、3人の増となり徐々に増加しました。一方、子どもの安全対策や生まれてきた子どもたちの才能を最大限に発揮できる仕組みづく

ふれあい市長室

南あわじ市長 中田勝久

特別養護老人ホームを民営化



▲調印式で、中田市長と握手をする淡路島福祉会の八木康公理事長(左)と、みかり会の谷村誠理事長(右)

場合、建設で利用した補助金の返還が生じることなどから、無償譲渡になりました。両施設はともに築15年以上を経過し、建物の修繕やユニットケアの整備など、今後多額の費用が見込まれていました。このため、民営化で市の財政負担が軽減されます。また、指定管理者制度では、数年ごとに更新があり、運営事業にも施設職員の雇用にも不安がありました。民営化により、事業者が安心して、サービスの提供に専念できます。調印式では、中田勝久市長が「事業者が変わるのではないかとという入居者や家族の不安が解消され、福祉分野で経験豊富な両法人と契約が結ば安心した」と話しました。



▲どんぐりの里(上)、すいせんホーム(下)

地域防災への決意と団結を誓う



▲勇壮に挙行された初出式

南あわじ市消防団初出式が1月10日、三原健康広場で行われました。式典には1070人の団員が参加。各方面隊による力強い分列行進が行われ、士気高揚を示し、地域防災へのさらなる決意と団結を誓いました。川本啓二団長は「災害現場で消防団としての任務をまっとうするのが我々の仕事である。啓発活動にも力を注ぎ、より一層の活性化を図りたい」と



▲初出式終了後に住宅用火災警報器設置の啓発をする消防団員

消防団初出式

おいしい！島内産100%の給食

島の地産地消事業

兵庫県が地産地消を進める事業の一環で1月15日、市内の幼稚園5園と小学校12校、中学校4校で、島内産100%の給食が約3800食出されました。給食では、ご飯のほか、おかずも全て地元産食材を使用。多様な食材を提供することが重要なため、全てを地元産でまかなうことは困難ですが、生産者の協



▲揚げ鶏のレモン漬け、おひたし、ばち汁、あじつけのり

▲全ての食材が島内産。小さな「ごま」も市内生産者の坂口すみ子さんから仕入れました。食べる顔にも笑顔がこぼれます

力もあり、オール地元産給食が実現。安全で新鮮、おいしい給食を児童等は楽しんで食べていました。神代小学校の児童は「給食はおいしくて大好きです。地元産はやっぱり安心です」と笑顔で話していました。